

はじめに

第Ⅱ期の古代学研究所の研究活動が、まもなく第1年度を終える頃になりました。学術フロンティア推進事業「日本古代文化における文字・図像・伝承と宗教の総合的研究」（2004～2008年度）の紀要であった『古代学研究所紀要』を継承し、本号で12号（新2号）となります。

文学の方は比較的論が立てやすい分野もありますが、考古学・歴史学となると基礎的な研究の積み重ねから始動しなければなりません。前号に続き、基礎的データが多いことを了承していただきたいと思います。ただし、紙媒体のかたちで公表できるのはむしろ少なく、画像を含むデータ量は膨大なものになります。どうしても電子媒体が必要です。

この度、明治大学の支援を得て、新生の古代学研究所ならではの充実したホームページを開始しました。まだ、明治大学のトップページにバナーがあり、すぐクリックするまでには至っていません。「附属機関・施設」に入り、「研究・知財戦略機構」を開きます。その「研究活動状況」に「特定課題研究ユニット」があり、古代学研究所にたどり着きます。

この方法は、けっして楽ではありません。むしろ、グーグルでもヤフーでも、「古代学研究所」を入力して検索していただければ、トップに出てきます。必ずしも「明治大学古代学研究所」と入力する必要はありません。ただし、まだ旧バージョンが多いのは、初年度のためなのでやむをえません。

さて、本プログラムの正式名称は「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」です。そして、研究テーマが「日本列島の文明化を究明する古代学の総合化研究」（2009～2013年度）であり、古代学研究所の研究業務として活動しています。あくまでも研究が中心です。ところが、この大半のメンバーが大学院の教育研究として、文部科学省の「組織的な大学院教育改革推進プログラム」（大学院GP）に採択された「複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム」に取り組んでいます。こちらの方は、日本古代学教育・研究センターで実施しています。私自身は、研究と教育という車の両輪として捉えています。このセンターでも、国内外の研究者を招聘して、旺盛にプログラムを展開しています。ホームページも充実していますので、ぜひご覧下さい。

2010年3月

古代学研究所長 吉村武彦（文学部教授）